

2 児童生徒質問紙調査について

質問は10の項目「基本的生活習慣等」「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等」「学習習慣、学習環境等」「部活動」「地域や社会に関わる活動の状況等」「ICTを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」「学習に対する興味・関心や授業の理解度等」「各教科に関する調査の解答状況」になっています。

(1) 結果と状況および今後の取組

主な項目について報告いたします。表の数値は、選択肢のうち「そう思う」「どちらかといえばそう思う」といった肯定的な回答を割合(%)として示しました。

		調査結果のうち特徴的なもの				状況および今後の取組	
1	基本的生活習慣	朝食を毎日食べていますか		市	県	差	生活状況では、「朝食の喫食」「就寝時刻」「起床時刻」という基本的生活習慣は、県平均とほぼ同じです。基本的生活習慣は学力面や健康面等影響があると推察されます。保健体育の授業や食教育等で睡眠の重要性や食事をバランスよく摂ることを指導することが大切です。
			小	95.7	95.2	0.5	
		中	90.2	91.4	-1.2		
		毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		市	県	差	
小	87.3		85.1	2.2			
2	挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等	自分には、よいところがあると思いますか		市	県	差	自身のよさに気づきいろいろな可能性があることを感じる大切です。これからの社会においては、個々の存在を認め合い、支え合うと同時に、周囲と良好な人間関係を構築することが求められています。
			小	85.0	83.5	1.5	
		中	80.4	82.6	-2.2		
		いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか		市	県	差	いじめはどんな理由があってもいけないという肯定的回答がほとんどです。これまでの学校・家庭・地域の意図的・計画的な指導ばかりでなく、日常のあらゆる場所・機会をとらえて、あらゆる人々が指導してきた賜物だと思います。ただ、「いじめ」を肯定している児童生徒が若干名いることから、今後も指導を丹念にきちんと、そして速やかに行うことを続けていく必要があります。
			小	97.2	97.5	-0.3	
		中	98.3	96.2	2.1		
		学校に行くのは楽しいと思いますか		市	県	差	コロナ禍で様々な制約がある中で学習、友達、運動会・学園祭・児童会・生徒会行事、クラブ・部活動等に対して楽しさを感じています。制約がなければ、より学校生活が楽しいと感じられたのではないのでしょうか。一つでも多く楽しさを味わい、意欲的な学校生活が送れるようにしていく必要があります。学校生活に馴染めない児童生徒に対し、寄り添い、学習・生活環境を整えていく必要があります。
			小	90.0	86.1	3.9	
		中	82.1	82.7	-0.6		
		普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか		市	県	差	学習成果を感じ友達との交流を楽しみ、また地域では身近な人々、社会及び自然のよさに触れていると考えられます。このことは人々や物事を肯定的に捉え、これからも関わっていきたいという意欲に繋がって行きます。中学3年生は、思春期を迎えるとともに進路選択も控えており不安定な時期になります。様々な場面で自信をもたせ、それを応援してくれる家庭・学校・地域の安定した教育環境づくりが、なお必要になっていると言えます。
			小	95.0	91.5	3.5	
		中	86.6	88.1	-1.5		

3	学習習慣、学習環境等	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか。(塾・家庭教師等を含む) 小(1時間以上) 中(2時間以上)		市	県	差	ここ数年取り組んでいる県及び本市の「家庭学習推進」の成果の表れがある程度見受けられますが、なお子どもたちの学力を定着させるためには、集中して学習する時間の長さの確保と質の向上を図る必要があります。
			小	51.1	57.2	-6.1	
		中	30.3	29.4	0.9		
			市	県	差	「朝の読書」等で全校的に読書活動に取り組んでいる学校もあります。読書習慣は一生の財産となるので、読書意欲を高め、習慣づける取組をさらに進める必要があります。中学校では家に100冊以上本があると回答した割合は県平均より20%程度高くなっています。身近な図書に手を伸ばすことができるとよいと思います。	
		小	18.0	15.8	2.2		
		中	11.7	15.8	-4.1		
	市	県	差	文部科学省から、「新聞を読む頻度が高い子どもの方が、平均正答率は高い」という結果が報告されています。新聞は、読解力、情報収集力、分析力、説明力、思考力、表現力等を培うのに格好の素材であり、今後工夫を加え、学力向上のための良い教材としていく必要があります。			
小	19.8	13.7	6.1				
中	5.4	9.3	-3.9				
4	地域や社会に関わる活動の状況	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか		市	県	差	大月市では「ふるさと教育」を推進しています。子供たちに地域の「ひと」「もの」「こと」に関心と愛着をもち、かかわってこうとする「当事者意識」を高めようとしています。ふるさと大月を次の世代にきちんと引き継いでいく責任を果たそうとする心が育っていると感じます。
			小	82.3	78.6	3.7	
中	72.3	71.5	0.8				
5	学習状況	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか		市	県	差	電子黒板、書画カメラ、一人一台タブレット端末、Wi-Fi等の環境整備が順次行われており、授業で活用されています。AIDリルの導入が進んでおり、意欲的に取り組む姿が見られます。これからも学校では効果的な場面を工夫し、より活用する機会を増やしていきたいと思っています。
			小	97.2	96.6	0.6	
			中	94.7	95.4	-0.7	
6	主体的取組状況	5年生(1、2年生)までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいましたか		市	県	差	「自分の考えをしっかりと伝える」「工夫して発表する」ことに課題が見られ、授業はもちろん、朝の会等でも機会を多くし経験させていくことが大切です。小中学校の新学習指導要領で示されている「課題解決のために必要な情報を集める」「目的や意図に応じて内容を整理し把握する」「理由を明確にして、論理的に分かりやすく説明する」「知っていることやできることを他に転化させて使いながら、自分の考えを広げ深め、話し合い等の共同作業を行うことで、最適解を求める」等の力をなお高めていくことが求められています。
			小	78.0	80.0	-2.0	
		中	78.6	83.5	-4.9		
			市	県	差		
		小	85.8	84.0	1.8		
		中	81.2	83.2	-2.0		
	市	県	差	学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか。			
小	80.8	80.1	0.7				
中	77.7	74.8	2.9				

3 大月市教育委員会事業との関わりについて

令和5年度の大月市学校教育指導重点に於ける教育理念は「夢に向かい 共に学び 共に生きる」となっています。重点目標として「ふるさと教育」の推進等、また重点方針を「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健康・安全に関する資質や能力の育成」としています。

「ふるさと教育」については、子どもたちと大人たちが共に学ぶことを通して地域ぐるみで豊かな未来を創ること、子どもたちに地域のことは今もこれからもかかわっていかうとする「当事者意識」を培い、生まれ育ったふるさと大月を次の世代にきちんと引き継いでいく責任を果たそうとする心を育てていきたいと思ひます。

今年度も夏休みを利用した学習支援（基礎学力の定着と学習意欲の向上）の場として学校単位で5日間の「大月サマースクール」を開催して学力の補充をしています。各校において多くの子どもたちが、学力向上に向け真剣に、意欲的に学習する姿が見られました。

また、「大月っ子学習サロン」を平日の放課後に実施し、日頃の学習課題に対応する取組が続けられています。これらの取組や、まだまだ改善の余地がある家庭学習の確立と充実に向けての取組を、各学校に引き続き働きかけて、本市の子どもたちの学力の向上を継続的に図り、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことができる子どもたちを増やしていきたいと考えています。